

## 〈曲 目〉

シューベルト：交響曲 第7番 短調 D.759 「未完成」  
メンデルスゾーン：ヴァイオリン協奏曲 短調 op.64  
ベートーヴェン：交響曲 第5番 短調 op.67 「運命」

## 〈プロフィール〉

### 飯森範親（指揮） Norichika Iimori (Conductor)

桐朋学園大学指揮科卒業。ベルリンとミュンヘンで研鑽を積み、1994年から東京交響楽団の専属指揮者、モスクワ放送交響楽団特別客演指揮者、ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団常任指揮者、広島交響楽団正指揮者などを歴任。96年、東京交響楽団のヨーロッパツアーでは「今後、イイモリの名が世界で注目されるであろう」と絶賛された。2003年、NHK交響楽団定期演奏会にマーラーの交響曲第1番でデビューを飾る。06年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、06年度中島健蔵音楽賞を受賞。

海外ではフランクフルト放響、ケルン放響、チェコ・フィル、プラハ響などに客演を重ねる。01年よりドイツ・ヴェルテンベルク・フィルの音楽総監督（GMD）に就任し、ベートーヴェンの交響曲全集を録音。日本ツアーも成功に導いた。

現在、東京交響楽団正指揮者、いずみシンフォニエッタ大阪常任指揮者、ヴェルテンベルク・フィルハーモニー管弦楽団首席客演指揮者。07年から山形交響楽団の音楽監督に就任、次々と新機軸を打ち出してオーケストラの活動発展と水準の向上に目覚しい成果を挙げたことで、10年のビジネス・イノベーション・アワード大賞、11年齋藤茂吉文化賞を受賞。近年は音楽家としての活動のみならず、こうしたアートマネジメント分野でもその才能を発揮、日本経営士会名誉会員として活躍の場を広げている。14年シーズンから日本センチュリー交響楽団首席指揮者に就任。オフィシャル・ホームページ [www.iimori-norichika.com](http://www.iimori-norichika.com)

### 坪井夏美（ヴァイオリン） Natsumi Tsuboi (Violin)

1993年米国ニューヨーク州生まれ。東京藝術大学附属音楽高等学校、東京藝術大学を経て、現在は同大学院音楽研究科修士課程1年在学中。第12回東京音楽コンクール弦楽部門第1位及び聴衆賞をはじめ、2015年マイケル・ヒル国際ヴァイオリンコンクール第4位、第81回日本音楽コンクール第3位、IMA奨励賞を受賞。ミュージックアカデミーinみやぎ2012・2013・2014にて優秀賞を受賞し宮崎国際音楽祭「新星たちのコンサート」に出演。14年からはオーケストラメンバーとして参加。小澤国際室内楽アカデミー奥志賀2015、リゾナーレ室内楽セミナー2016に参加。

これまでに読響、新日本フィル、日本センチュリー、東京フィル、芸大フィル、ニューフィル千葉、と共演。江副記念財団第44回奨学生、ルームミュージックファンデーション15、16年度奨学生。また東京藝術大学学内にて安宅賞、アカンサス音楽賞を受賞。卒業時に皇居内桃華楽堂にて御前演奏会に出演。

これまでに、橋本璋子、故 Lydia Mordkovich、Mateja Mordkovic、清水涼子、神谷美千子、Pierre Amoyal、漆原朝子、原田幸一郎の各氏に師事。室内楽を松原勝也、市坪俊彦、川本嘉子、川崎和憲、大関博明の各氏に師事。

### 日本フィルハーモニー交響楽団（管弦楽） Japan Philharmonic Orchestra

1956年6月創立、楽団創設の中心となった渡邊暁雄が初代常任指揮者を務める。当初より幅広いレパートリーと斬新な演奏スタイルで、ドイツ・オーストリア系を中心としていた当時の楽壇に新風を吹き込み、大きなセンセーションを巻き起こした。2016年に創立60周年を迎える。この歴史と伝統を守りつつ、さらなる発展を目指し、質の高い音楽をお届けする「オーケストラ・コンサート」、音楽との出会いを広げる「エデュケーション・プログラム」、音楽の力で様々なコミュニティに貢献する「リージョナル・アクティビティ」という三つの柱で活動を行っている。

ロシアの名匠、首席指揮者アレクサンドル・ラザレフ、桂冠名誉指揮者小林研一郎、正指揮者山田和樹、首席客演指揮者ピエタリ・インキネン、そしてミュージック・パートナー西本智実という充実した指揮者陣を中心に、さらなる演奏力の向上をめざし、「音楽を通して文化を発信」していく。11年4月より、聴衆からの募金をもとにボランティア活動「被災地に音楽を」を開始、15年3月末までに165公演を実施し、現在でも継続している。オフィシャル・ウェブサイト <http://www.japanphil.or.jp>



(C)山口敦